

安全・確実・迅速に対応

老人福祉施設で消防訓練

津消防タイムズ

第47号



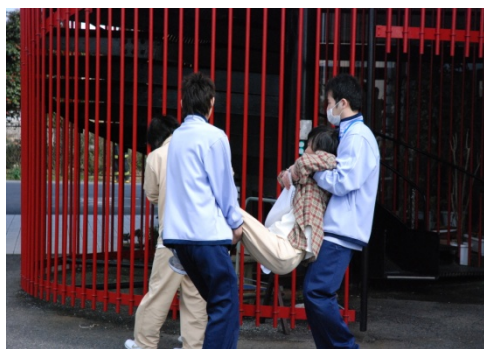
↑一斉放水を行う消防隊員

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町 2276

編集 消防総務課
企画調整室
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの
お問い合わせ
☎224-1881
救急医療情報案内
☎256-1199



↑利用者を避難させる施設職員

○春季全国火災予防運動に伴う訓練を実施

三月二日、春の火災予防運動に伴い、介護老人福祉施設ロマン（芸濃町椋本）で消防訓練が行われ、施設職員や利用者、北消防署員など約百人が参加しました。

訓練は、二階リハビリコーナーから出火したとの想定で始まり、施設職員が初期消火、利用者の避難誘導を実施しました。続いて、北消防署などの隊員がポンプ車、



↑はしご車で逃げ遅れた人を救助に向かう消防隊員

はしご車、救急車などで駆け付け、逃げ遅れた人の救助や応急処置を行いました。

訓練終了後、宮田正人北消防署副署長は、「火災は、いつ発生するか分かりませんが、有事に対応できるような備えと緊張感を持つてほしい。」と講評しました。

参加した施設職員は、「今後も利用者の皆様が安心して過ごしてもらえよう、訓練に励んでいきたい。」と述べていました。（高橋直通）

防火・防災の心構え新たに



○津市消防出初式を開催

一月十六日、新春恒例の津市消防出初式が津リージョンプラザ(西丸之内)周辺で、消防関係者ら約七百四十人が参加して行われました。この日は深夜から早朝にかけて降った雪が景色を白く染め、年頭の出初式にふさわしい凜とした雰囲気の中での開催となりました。

松田直久市長は「東海・東南海地震の発生が危惧されています。二十九万市民の信頼と負託にこたえられるよう、先人の教えである事上錬磨の実践に努めてください。」と消防団員等に激励しました。その後、地域の安全・安心のために尽力された団体や、永年にわたり消防団員として活動した団員とその家族に対し表彰が行われました。

屋外では、消防団員が太鼓を打ち鳴らし、纏(まとい)を振りかざす木遣りが披露されたほか、消防車両等の分列行進が行われました。

最後に、お城公園のお堀で消防団員らによる一斉放水が行われ、消防関係者らが、今年一年の防火・防災の心構えを新たに、氣勢を高めました。(横山博)

安全で安心したまちづくりを目指して



○津市消防音楽隊三十五周年記念演奏会を開催

十二月十八日、津市消防音楽隊は、津リージョンプラザお城ホールで、創立三十五周年記念演奏会「FIREMAN CONCERT 二〇一〇」を開催しました。市民の皆様は、消防が身近な存在として感じてもらえるよう、「津市の安全・安心のハートモニター」をテーマとし、演奏と併せて消防ならではの手づくりの演出にこだわりました。

演奏会では、賛助団体として迎えた三重県警察音楽隊が「踊る大捜査線のテーマ」などの曲を演奏するとともに、交通安全や防犯対策について呼びかけました。また、曲の合間には、女性消防団員による防火寸劇なども行われ、会場は大いに盛り上がりました。

演奏会に来ていたお客さんは、「演奏を聴いて元気づけられました。これからも火災予防に気をつけたい。」と述べていました。(上田隆広)

○ベテランの技術、知識を継承

十二月二十一日、消防技術の向上と継承を目的に導入された技能指導官制度の救助技術の部の第一回目の研修が、津市消防本部で開催されました。

講師には、技能指導官である黒川喜信久居消防署南分署長を迎え、「風と消防」をテーマに行われました。救助現場で風が与える影響を分析するため、実際にビルの模型を作り、扇風機で風を起こすなどして、実証実験を行いました。

また、水難救助を想定し、風や川の流れを利用する効果の高い救助方法などを学びました。



↑風や川の流れを想定して救助ロープを投げる隊員

参加者は、長年の経験から得た技術や知識を少しでも継承し、実践で活用していききたいと述べていました。（高橋直通）

○指導会参加隊員選抜の体力測定を実施

体力測定を実施

二月七日、八日、消防救助技術東海地区指導会（本年七月十四日開催予定）に参加する隊員を選抜する試験を実施しました。

津市消防では、若手職員の救助隊員としての資質の向上を図るため、これまでも同指導会に参加しており、今年も陸上の部の障害突破と引揚救助の二種目への出場を予定しています。

この選手となるための試験は、ロープ登はん、持久走、腕



↑限界までの腕立て伏せ

立て伏せ及び腹筋などで、救助隊員を目指す若手職員は、日ごろの体力錬成の成果を発揮していました。（宮本真一）

○災害弱者を守れ

一月三十日、特別養護老人ホーム慈宗院（津市片田長谷町）で、施設職員、地域住民及び消防職員が参加して防災訓練を実施しました。

訓練は、大地震が発生して、けが人が多数出ているとの想定で始まり、初期消火訓練や救急訓練に加え、地震体験などが行われました。

訓練に参加した施設職員は、「大規模な災害が発生すれば、まず災害弱者が危険にさらされます。地域の人たちとも協力して利用者の皆様を守っていききたい。」



↑15mのロープ登はん挑戦

と述べていました。

訓練の最後には、炊き出しが行われ、利用者、施設職員と付近住民の親睦が図られました。（前山卓大）

○訓練計画策定功労に表彰状

十一月二十五日、津市消防本部で職員六人に対して消防長から表彰状が授与されました。

これは、十月三十日、三十一日に開催予定であった平成二十二年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練及び平成二十二年度近畿府県合同防災訓練の実施にあたり、広範な関係機関と緊密に連携し、複雑多岐にわたる実践的な訓練計画を策定し、津市の



↑地震体験車で揺れの大きさを実感した参加者

応援、受援体制に多大な功績を残したことから、その功労をたたえ表彰されたものです。
 残念ながら近畿地方に台風が接近するという悪天候により訓練は中止となりましたが、今後、万一津市が被災した場合、この経験を市民の安心・安全のために活用されることが期待されます。(高橋直通)



↑消防長から表彰状を授与される職員

○**腹話術で防火を呼び掛け**

一月二八日、津市消防団美杉方面団の女性団員らが、高齢者と保育園児を対象に、防火劇等を実施しました。

劇では、おばあさんやお母さんに扮した消防団員が、「外出するときは必ずストーブの火を消して」「料理しているときはその場を離れないで」と腹話術人形を



↑腹話術で子供たちに火災予防を訴える消防団員

使ったストーブ火災や天ぷら火災を題材に防火意識の高揚を図りました。
 参加した園児たちは、しゃべる人形に少し驚きながらも「火遊びは絶対しないで」と人形の問いかけに大きな声で「はい」と約束していました。(岡林隆志)

○**自衛消防業務講習会を開催**

一月十九日、二十日に津市消防本部予防課は、自衛消防業務講習会を開催しました。

これは、消防法の規定に基づき、大規模な建築物については、自衛消防組織を設置しなければならぬため、その自衛消防組織を統括する者(統括管理者)等に対し、自衛消防業務新規講習を開催した

ものです。

座学では、自衛消防組織の運用と災害発生時の対応を学び、総合訓練では受講者が三班に分かれ、連携を取り合いながら、在館者の避難誘導、消防機関への通報などのシミュレーション訓練を実施しました。

参加者は、有事の際に利用者の安全を守るため、真剣に講義を受講していました。(田村公二)



↑連携を取りながら訓練を実施する受講者

○**文化財防火デーに伴う訓練を実施**

訓練を実施

一月二十六日、第五十七回文化財防火デーに伴う行事として、高田本山専修寺(一身田町)で、高田本山自衛消防隊、一身田地区自治会、同地区自主防災協



↑フィナーレを飾るはしご車からの一斉放水

議会、婦人防火推進委員、津市消防団津方面団及び北消防署など総勢約百四十人が参加し、消防訓練が行われました。
 この訓練は、歴史ある貴重な建築物や国宝が収められている専修寺で毎年実施されており、今年も震度六強の地震により建物が倒壊し、火災が発生したという想定で始めました。文化財の搬出をはじめ、負傷者の救出や応急手当、初期消火訓練、境内に設置されている屋外消火栓や放水銃を使用した放水訓練のほか、消防隊による火災防ぎよ訓練など実践さながらの訓練が実施されました。

訓練参加者からは、「歴史ある郷土の文化遺産や街並みを残すため、家庭においても普段から火の元に注意したい。」と述べていました。(牛場明広)

○ステアレーズで

限界に挑戦

一月二十三日、宮崎県宮崎市で日本警察消防スポーツ連盟主催による「二〇一ステアレーズ宮崎大会」消防士として己の力をどこまで発揮出来るか」が開催されました。

種目は、階段駆け上がりレースとパワーレースの二種目に分かれ、階段駆け上がりレースはシェラトングランデオーシャンリゾート四十三階展望室(階段約八百段)まで防火服、呼吸器を着装し、一気に駆け上がるそのタイムを競います。また、パワーレースは、二人一組で協力し合いながら、三十五キログラムのおもりを運び、二百五十キログラムの鉄塊をハンマーで叩いて移動させ、消防ポンプ自動車を人力で三十メートル引つ張るその合計タイムを競います。



↑体力、気力の限界に挑戦した5人

津市消防からは、階段駆け上がりレースに、駒田竜司消防司令補、草深洋成消防士長(消防総務課)及び荘司ひとみ消防士(中消防署)が、パワーレースには、鳴海正消防司令補(中消防署西分署)、上杉初男消防司令長(久居消防署)の五人が参加しました。レースでは、災害時の消防活動で最も重要な被害を最小限に抑えるとともに、どのような状況にあっても「消防士が助けに来てくれる」という市民の期待に応えるべく、ひたすらゴールを目指しました。

参加した五人は、これからも「消防として求められるものは何か。市民が期待する消防士の姿とは何か」ということを探求し、日々の鍛錬を怠ることなく精進を重ねていきます。」と力強く語りました。(上杉初男)

○津市防火協会主催

防火川柳優秀作

最優秀作

山川 寛 様

火事と風邪 共に大事な

予防かな

優秀作

倉田 富郎 様

ガス栓を 閉める日課を 妻誇り

藤田 初男 様

火事おやじ 昔の話 今は妻

別所 知二 様

禁煙で 助かる家計と 火の心配

積木 朗子 様

うちはない その思い込み

家はない

森山 純 様

涙では 消せぬ悲しさ 恋と火事

黒川 多美子 様

焼け跡の 部屋の思い出 走馬灯

荻山 幸重 様

火事出して

済みませんでは済みません

岡 あずみ 様

乾燥は お肌と火事の 大敵よ

鈴木 智美 様

位警器 買い流ったの 悔い残る

結城 實 様

消したかな いや忘れたかと

橋本 滋 様

また戻る

日常の 慣れた家事から

植山 昇 様

火事が出ると 火事が出る

青山 静子 様

火事出せば 儂く消ゆる 金、命

古希近し 子らが案ず

火の始末

中西 睦 様

二十年 我が家焼け落ち 二十分

長谷川 尊宜 様

地域の輪 消える心の 火を灯せ

池村 天辰 様

寝タバコで 消したくないよ

黒川 奈津実 様

その命

カチカチと

親子で夜廻り

冬の空



平成22年の火災・救急・救助概況

火災



▲は減少を示します。

区 分	平成22年	平成21年	増 減
火災件数合計	110	109	1
建物火災	66	56	10
うち 住宅火災	38	34	4
林野火災	5	10	▲ 5
車両火災	11	12	▲ 1
船舶火災	0	0	0
その他の火災	28	31	▲ 3
死者(人)	9	6	3
うち 住宅火災	7	3	4
負傷者(人)	11	13	▲ 2

平成二十二年中の市内における火災件数は百十件で、前年とほぼ同数となりました。火災種別で見ると、建物火災は十件の増加となりましたが、林野、車両、その他の火災は減少しました。火災による死者は九人で、うち住宅火災による死者は七人、車両火災一人、その他の火災一人でした。住宅火災で亡くなられた七人のうち三人（三人とも六十五歳以上）は逃げ遅れによるものとみられ、これらの住宅には住宅用火災警報器は設置されていませんでした。

津市における住宅用火災警報器の推計設置率は、平成二十二年度調査で六五・二%となつていますが、火災が発生した住宅では、約二九%（三十八件中十一件）と、設置率が低いという傾向がみられました。

救急出動件数は一二、二三四件で、前年に比べ六五二件の増加となり、過去最高の出動件数となりました。前年と比較し、急病、交通、一般負傷の増加がみられます。事故種別で見ると、例年同様急病が七、四一六件で最も多く、次いで一般負傷の一、八四一件、交通の一、四六九件の順となっています。また、傷病程度では、全体の約半数が軽症者で占められており、この中にはタクシー代わりとみられる救急事案も散見されます。

救急



区 分	平成22年	平成21年	増減	
出動件数	12,224	11,572	652	
搬送件数	11,312	10,693	619	
搬送人員	11,532	10,925	607	
主な事故種別	急 病	7,416	6,997	419
	一般負傷	1,841	1,744	97
	交 通	1,469	1,357	112

救助



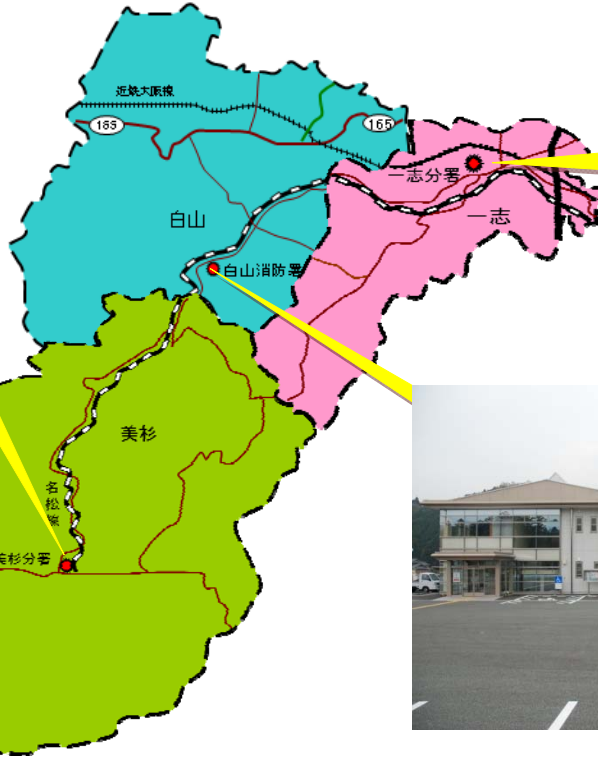
区 分	平成22年	平成21年	増減	
出動件数	118	157	▲ 39	
活動件数	56	81	▲ 25	
救助人員	53	81	▲ 28	
主な事故種別	交通事故	74	98	▲ 24
	火 災	7	3	4
	水難事故	5	8	▲ 3
	建物等による事故	5	10	▲ 5

救助出動件数は一一八件で、前年に比べ三九件の減少となりました。事故種別で見ると、火災が七件で、四件の増加となりましたが、その他は減少し、最も多いのが交通事故の七四件で、全体の六二・七%を占めています。火災の救助件数が増加したのは、建物火災が増加したことが大きな要因と考えられます。また、救助人員は五三人でした。

特集！消防署紹介 白山消防署



↑美杉分署



↑一志分署



↑白山消防署

白山消防署



白山消防署
署長 小宮貞則

白山消防署は、津市の南西部に位置する白山町南家城にあり、白山町、一志町、美杉町を管轄し、一消防署二分署体制で署長以下六十一人の職員が勤務しています。

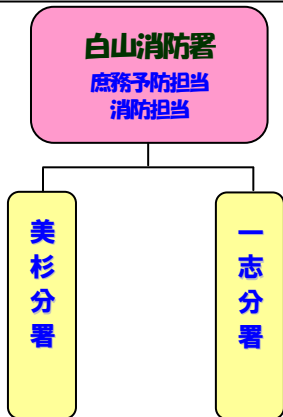
管内の特徴としては、布引山系、一志山系の緑濃い山並みに抱かれて、雲出川の清流と四季折々に表情を変える街並みがあるところです。その区域は、南は松阪市、西は名張市と奈良県御杖村に隣接し、津市全体面積のおよそ半分を占めています。

また、青山高原を中心に、矢頭山、大洞山、俱留尊山等は、手軽なハイキングコースとして年間を通じてハイカーで賑わい、特に管内には恵まれた自然の地形を巧みに生かしたゴルフコースも多く、市民や観光客を楽しませています。更に桜の時期には、多気北畠氏城館跡周辺、君ヶ野ダム公園、さくら名所百選にも選ばれた三多気の桜には毎年大勢

の行楽客が訪れます。

このような風光明媚な素晴らしい所ですが、高齢化の波はこの地でも進行しており、独り暮らしの高齢者世帯が年々増えています。白山消防署としては、防火診断の実施や消防団との連携、そして自治会の訓練を通じて普段から火災予防の啓発と住宅用火災警報器の設置推進に努めています。

最後に、地域の皆様に信頼される消防署づくりを進めるため、「気楽に物事が言えるアットホームな雰囲気創り」を署風とし、職員はもとより、地域住民の方々にも気軽に消防署に相談に来ていただけるよう、職員が一丸となって日々努力しています。



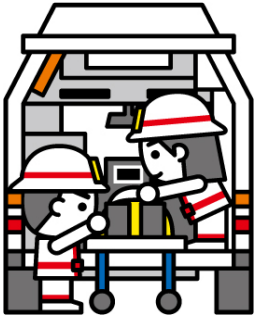
○救急の現状を考える

二月三日、四日に愛媛県松山市で「未来の救急現場に新たな決意を」と愛ある救急、愛媛から「」をテーマに第十九回救急隊員シンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、全国の救急隊員等を対象に救急業務に関する研究発表や最新の医学知識等を学ぶ場を設け、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的とするものです。

津市消防から久居消防署指揮司令の伊豆川高志救命士が「脳卒中疑い傷病者の発症・搬送時間に関する現状調査後の推移」として、津市消防管内における脳卒中患者の救急の問題・課題について発表しました。

全国各地の消防職員は、同様の問題を抱えており、有意義な意見交換の場となりました。(笹村晶紀)



新鋭車両紹介



↑久居消防署に導入された圧縮空気泡消火装置積載車



↓中消防署に導入された化学消防車

カメラアングル



←二月二十七日、二志町で行われた山林火災防ぎよ訓練



←三月三日に行われた久居消防署合同訓練

☆ 主な行事予定 ☆

- ◆ 三月十三日(日)
三重県消防大会(三重県総合文化センター)
- ◆ 三月二十七日(日)
上級救命講習(白山消防署)
- ◆ 四月十一日(月)
美里分署開署式(美里分署)

☆ 音楽隊派遣演奏予定 ☆

- ◆ 三月十三日(日)
・三重県消防大会(三重県総合文化センター)
- ◆ 四月三日(日)
・桜まつり(君ヶ野ダム)
- ◆ 五月十一日(水)
・津市交通安全運動(お城西公園)
- ◆ 五月十三日(金)
・東海五県軟式野球大会(津球場)

ご家庭に住宅火災警報器を設置しましょう!
消防法の一部改正及び火災予防条例の改正により、平成20年6月から住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。



～平成23年2月末日までの災害～

火災	41件(23件)
救急	2,037件(2,017件)
救助	14件(21件)

() 内は前年同期

編集後記

最近、日に日に暖かくなり、春の訪れを感じられるようになりました。今年は、花粉の飛散量が昨年の数倍だそうです。みなさんは大丈夫でしょうか？
さて、昨今の世界情勢は、ニュージーランドで地震が発生し、アラブ諸国では反政府運動が勃発しています。また、日本においては霧島連邦新燃岳が噴火したり、三重県では鳥インフルエンザが発生したりとさまざまな自然災害、人的災害が起きています。
新年度を迎えるにあたり、入学や就職、人事異動といった新しい環境になる方もいらっしゃると思います。
皆様方におかれましては、万一の災害に備え、新しい環境で防災訓練や火災予防に取り組んでいただければと思います。(高橋直通)